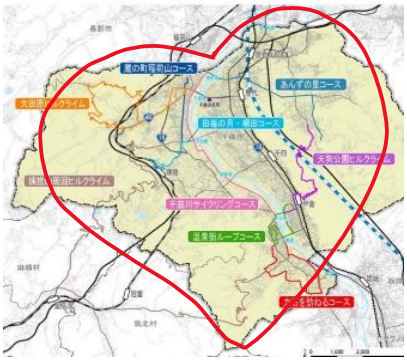
サイクリングがつなぐ千曲市の未来

～上山田温泉からサイクリングを活かし、人と人を繋ぐ地域づくり～

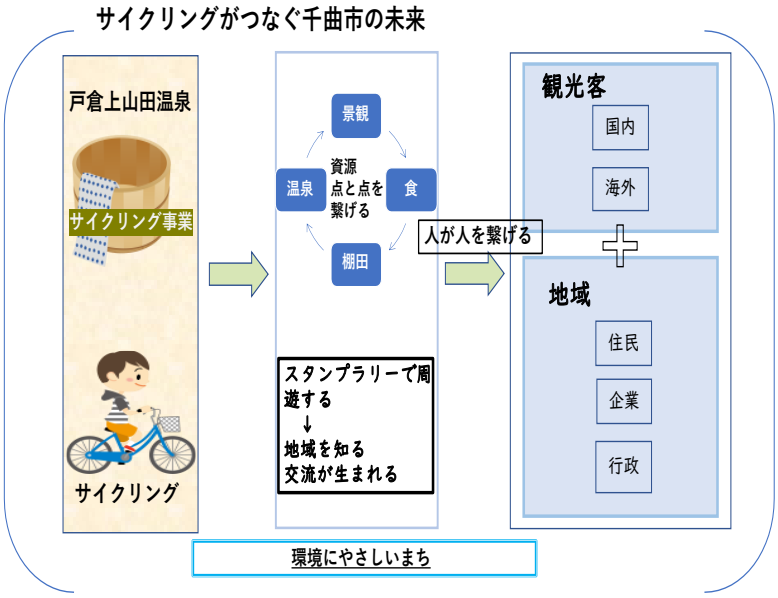
NPO 法人元気お届け隊　長浦 とし子

１、はじめに

長野県は、大きく分けて「北信・南信・中信・東信」と 4 地域で形成されている。千曲市は、北信地域の南東部に位置し、東西から南北に大きく曲がりながら千曲川が流れ、長野市、上田市、松本市の長野県の主要都市に囲まれ、更埴ジャンクションが有る好立地である。ハートの形をした標高 400m 前後の四季を通して穏やかな気候の住みやすい地域である。四季折々の草花が咲き、各地域に市営や安価で利用できる温泉があり、住む者の目と心を和ませてくれている。素晴らしい地域であるが、合併して 17 年、いまだに旧市町内の地区での交流にとどまり千曲市としてのまとまりに欠け、2019 年秋に発生した台風 19 号では、地域間でのコミュニケーションが乏しいことで、避難経路や避難場所の情報が分かりにくく不安を抱いた。台風の片付けボランティア活動中に、見ず知らずの人達が県内外から駆けつけて復興の手伝いや支援物資を運んでもらえた事で励まされた経験から、人と人との繋がりは生きて行くうえで重要だと実感した。



千曲市地形



全体図

上山田温泉で始めようとしているサイクリング事業の話を知人から聞き、サイクリングで千曲市を巡ることで、地域の人と人を繋いで行けると感じ、科野さらしなの里サイクリング推進委員会に参加させてもらった。

現在、上山田温泉にとどまっているサイクリング事業を観光の力も借りつつ市内に広めて行く事で、人と人を繋ぐ地域づくりが出来ないかをレポートにまとめていく。

２、合併前後の地域間の交流の現状

⑴合併前の1市2町の交流と協力関係

千曲市の前身の更埴市、戸倉町、上山田町は、昭和30年代前半に昭和の大合併により近隣の町や村が合併して誕生した。それから40年余り経過する中で、1市2町の農業協同組合が合併し、平成12年、市としての合併について住民アンケートの結果をうけ(80%賛成)平成15年9月1日に平成の大合併で千曲市が誕生した。

聞き取りで得た情報では、農業協同組合間の取り組みで、旅行や交流会を通して地域を越えて交流を活発に出来ないか幾度となく企画したが、思うような成果が出なかったという。同じ行先の旅行でも、バスも宿泊施設も別にしないと成立しなかったとの話を聞き、当時の苦労を垣間見ることができた。隣接自治体として、合併前からゴミやし尿の共同処理、常備消防や中学校の共同運営など様々な業務で協力し合っていた(千曲市ホームページ参照)

⑵合併後の交流と協力関係

市民活動団体が、イベントを開催して交流を促しているが、イベント毎での参加者が同じで広がりが見えないことや団体同士も権力争いをしていて協力体制にないことが現状である。

20代から80代の市民約50名への聞き取りを行った結果、「旧地域間の交流の機会が無く交流することが出来ない」、「特に交流したいと思わない」、「小さなコミュニティでも役員会以外顔を合わせる機会がほとんどない」、「皆、お山の大将で協力する気が見られない」、「ママ友とお茶している」、「行事は過ぎてから知る事が多く参加出来ていない」、「交流の機会が有れば参加したい」と答えた人はいたが、他地域の事を知る機会と交流する機会が少ないことや関心が無いことがうかがえた。しかし、回答の中で「住んでいる地域や千曲市が好き」「気候が安定しているので住みやすい」などの、地域に愛着を持つ人も目立った。(職場やNPO法人元気お届け隊主催イベントでの聞き取りより)

調べた結果、課ごとに様々な企画をして市報やホームページを使い市民に呼びかけ、それぞれの企画への参加者間での交流が有るのみで広がりはみせていない。

私自身も、市民活動交流会や食の風土記編纂委員会などに参加してきたが、参加者間での交流が繋がるには至っていない。現在も、旧地域内での限られた地域や人での交流にとどまり、他地域との交流に積極的に取り組もうとしていない。他地域との交流が乏しく、考えが古く閉鎖的である事から他への思いやりや配慮に欠ける為、台風１９号の災害時での避難生活でも不安があるといった問題点が浮き彫りになった。協力関係が広まりに欠けるのは、地域を越えての交流が無いことで他地域を知る機会が少ないことが大きな原因である。

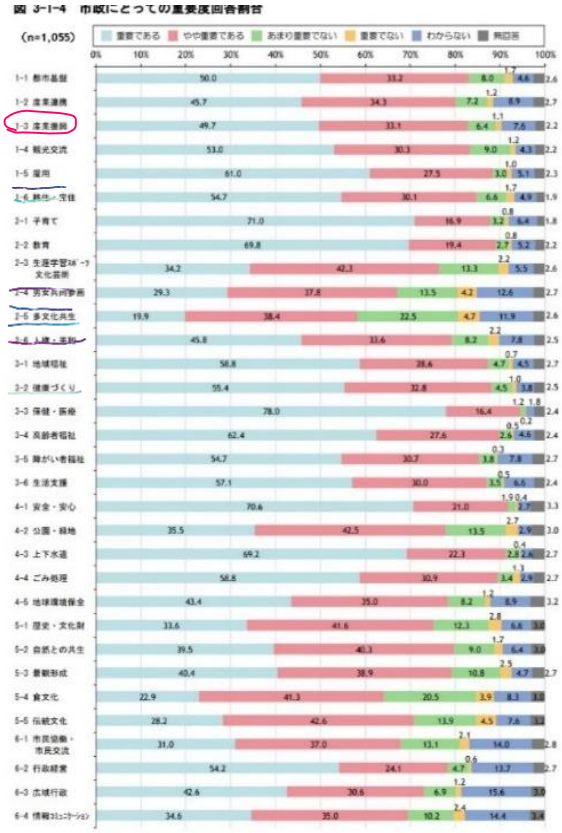
⑶施策による交流の状況

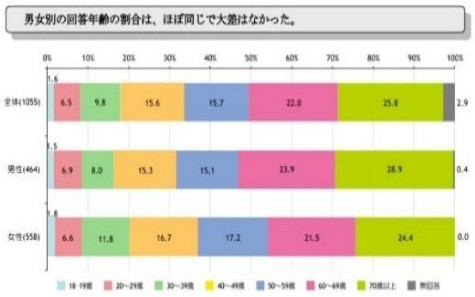
市役所への聞き取りから上記⑴、⑵で記述したように、1市2町間での交流を促す施策

は、ほとんど行われてこなかったことが分かった。

市で実施した市民満足度調査の結果から、コミュニティについて関係する項目で、重要・やや重要の割合が低い傾向がみられる。回答者の１/３が会社員で、地域交流をし難いのが理解できるが、１/３が主婦(主夫)の無職で、教育・高齢者福祉・健康などの生活に直結している事柄に関心が集中していて交流に関係した項目の重要度が低いことが見て取れる。(下記グラフ参考)

しかしながら、観光交流の項目は重要度が高くなっていて、収支に関係する事には興味を抱いていることが分かる。聞き取りした回答と合わせて読み解くと、交流について全く興味が無いわけでもないが、自分自身の日々の生活で忙しく、交流の事を考える余裕が無いのではないかと推測できる。





(3)職業

職業別では、「専業主婦・主夫、無職(31.0%)」が最も多く、次いで「会社員(29.4%)」となっている。

形態別では、(農林水産業)と(商工サービス業ほか)を合わせた“自営業”が 9.3%、「会社員」「公務員」「団体職員」を合わせた“勤め人”が 35.4%、「専業主婦・主夫、無職」が 31.0%となっている。

平成 29 年調査結果と比較すると、各職業ともほぼ同じ割合となっている。

千曲市ホームページ平成 29 年 6 月市民満足度調査集計より

３．それぞれの地域に在るものと現状と課題

⑴更埴地域の在るもの

更埴地域は、棚田 100 選に選定された姨捨の棚田と姨捨からの景観があり、棚田米がブランド化され販売されている。果樹生産が盛んで、あんずは大変有名で、4 月に花見、6 月に収穫体験と観光客で賑わいを見せている。近年では、巨峰から「シャインマスカット」「ワイン用ブドウ」へと植え替えが進み、ワインブドウ作りに携わる移住者やＵターンやＩターンの若者が増えている。

更埴地域の強みは、ジャンクションが有ることで、関東・関西・東北とのアクセスが良く、都心から車で3時間、電車で2時間ほどの好立地である。リンゴ・葡萄・あんず等の収益が高い果樹作りが盛んな地域でもあり、Ｉターンや U ターンで就農し易い場所だともいえる。

しかしその逆に、交通の便が良いことで若者が出ていきやすい環境である事が弱みでもある。

⑵戸倉地域の在るもの

千曲市最大の節分草群生地があり、保護活動をしている団体により大切に守られ、毎年多くのファンを楽しませている。

戸倉地域の強みは、安価で一浴できる天然かけ流しの温泉施設があり、市内はもちろん市外からも多くの利用者が訪れている。戸倉地域は、商売の町としての気質が根付いているが、商店街は活気が無く空き店舗が目立つひっそりとした街並みである。

戸倉地域の弱みは、国道沿線にあることで通過されてしまい存在が知られにくいことである。

⑶上山田地域の在るもの

上山田温泉には、21件の宿泊施設があり、豊富に湧き出る温泉が魅力な地域である高台には、戦国時代に武田軍と上杉軍の奪い合いの渦中となった荒砥城が在り、歴史好きの観光スポットになっている。

近年、宿泊客が減少の一途をたどり廃業する宿も年々増え、週末でも静かな温泉街となっている。

上山田温泉地域の強みは、千曲川の氾濫にも屈することなく再建し続けてきた、趣のある温泉街で歴史ある建物の旅館がある事だ。

また、城跡もあり、そこから見下ろす町並みと千曲川の景観も良い。

上山田温泉地域の弱みは、最寄りの駅から遠く、駅や道沿いに地図と看板が無いことで訪れた人に分かり難いこと、各々の宿泊客を旅館内で囲い込み街歩きやほかの施設の利用を楽しんでもらってこなかった事で、地域全体で利益共有が出来ず協力体制に欠ける点があげられる。

⑷現状と課題

千曲市には、「月の都」の日本遺産と祭事や建造物など22の国指定の重要文化財が存在し、長野県指定や千曲市指定を含め100弱の財産があり、国内外に誇れる市であると言える。(歴史文化財センター資料参照)

其々の地域には、人・歴史・文化や価値あるものが豊富に存在しているが、交流の機会や情報が少ないことで他の地域の事を知らない人が多く、点を結ぶことが出来ていない。

他を知ろうとしない事や交流が自地域のみに留まることで、災害時・緊急時の避難所での助け合いの気持ちが薄れ、差別やイジメ、孤独に繋がる。

千曲市がまとまりに欠けるのは、交流や情報共有が出来ていないことで人と人の関係が希薄であることが要因である。

４、観光の力を借りて未来へと繋ぐまちづくり

合併して広域になり、伝統ある祭事や歴史や財産が豊富になったのだが、存在すら知らない人や「何もない市」と思っている人が多い、その反面で「気候が穏やかで住むには良い」「何も無いことで、静かで住みやすい」と答える人も多くいる。

地域の良さを知ることで地域愛が芽生え、住み続けたいと思う気持ちが強くなる。市民の多くがその思いを共有できれば、まとまりが生まれるのではないかと思う。

現在、上山田温泉では、(一社)信州千曲観光局と旅館経営者が中心となり観光の力を借り千曲市の賑わいを模索している。その一つとして「姨捨夜景ツアー」「ずくだしエコサイクリングツアー」「街歩き」を開催している。始まったばかりで認知度が低いため参加者が少ないが、宣伝をすることで今後ツアー参加者の増加が期待されている。私は、夜景ツアーを体験したが、夜の山道をガイドの名調子と共に、夜景を見ながら姨捨駅の記念切符や老舗の味噌を貰えたり、姨捨サービスエリアで田毎の月を見たり、お得な小旅行でお薦め出来るツアーである。

（一社）信州千曲観光局ホームページより

月	レンターサイクル回数	バスツアー利用者数	街歩き参加者
1 月	2 回	0 人	8 人
2 月	6 回	3 人	1 人
3 月	3 回	0 人	2 人
4 月	16 回	0 人	8 人
5 月	1 回	5 人	
6 月	7 回	9 人	
7 月	8 回	6 人	
8 月	22 回	4 人	
9 月	4 回	0 人	
計	69 回	27 人	19 人

レンターサイクル、バスツアー、街歩きの利用実績（資料提供旅館経営者）

地域に活気をもたらすために観光客の滞在時間は、重要であり雇用の場の創出と貴重な収入源である。

来年度より、千曲市との協働事業で「サイクリングinちくま」が採択され展開される。サイクリング事業が、観光を利用して地域を繋げることは出来ないかと考えた。

まず、スタンプラリーをしながら(５．に詳細)千曲市内のサイクリングコースを周遊するイベントを開催する。参加者は、サイクリングに興味のある人や健康志向の人を、専門サイトや専門誌、長野県アンテナショップ銀座NAGANOで募る。

市民へは、市報やホームページで周知と参加を呼び掛け、スタンプラリーの協賛店やトイレ・休憩所・メンテナンスの場を募ることにより、上山田温泉地域内にとどまっていたサイクリング事業を千曲市内へと広めることが出来る。

スタンプラリーの目的の一つとして、来訪者を増やすきっかけ作りと市民同士の繋がり・サイクリングコースの地図を作成することで、地域の道を知ること・災害時の避難経路としても役立つことである。

情報を共有することで、一体感が生まれまとまり易くなる。

聞き取り調査時に、バスツアーのガイドが無償で行われていることに疑問を感じ報酬を支払う様に働きかけた結果、報酬が出る事になったと喜ばれ、一つ繋げることが出来た。

５、サイクリングで人と地域をつなぐ

⑴サイクリング事業について

千曲市には、温泉施設・景観・農産物・祭事と多くの宝が点在していて、観光客が地元住民と交流できる要素が備わっている。

点を線でつないで行くことが出来れば、地域住民も地域を越えての交流が生まれると考え、解決策案を策定し千曲市と(一社)信州千曲観光局へ提案する。

来年度より、千曲市との協働でサイクリング事業がスタートする。

サイクリング事業の概要は、スタンプラリーの実施、単発的イベントではなく、多くの人に参加してもらえる様に2〜3か月の期間を設け開催する。

スタンプを集めて貰える参加賞と、抽選で貰える参加店の食事券や、宿泊券など豪華賞品を用意する。宿泊券や食事券を賞品にすることで、再来のきっかけになる。

最長3年間は、千曲市協働事業として毎年100万円が補助されて、参加店からの協賛金とクラウドファンディングでの合計約200万円の運営費で賄う。

サイクリング事業の目的は、観光客の誘客と観光客と市民との関係作り、千曲市の人と人を繋ぎ情報の共有を図り、人と物、点と点をつないでいくことである。

国では、平成29年「自転車活用推進法」が施行され、長野県では平成31年に「長野県自転車活用推進計画」が策定され自転車を活用した地域づくりが進められている。

千曲市は、令和2年3月「自転車活用推進計画」を策定し、地域の活性化や市民の生活の質の向上を期待している。

平成28年8月に戸倉上山田温泉旅館組合や市内外の自転車愛好家､行政機関により構成される「科野さらしなの里サイクリング推進委員会」を設立し、サイクリング環境整備の

検討を行っている。建設課、観光交流課、(一社)信州千曲観光局が一体となり、環境に配慮した安心で安全な地域づくりの構築を図っている。

サイクリングでのまちづくり先進地域の茨城県石岡市では、自転車活用計画として「石岡市りんりんタウン構想」を策定し自転車によるまちづくりを進めている。道路環境の整備や駐輪場の確保をし、自転車利用の促進をして健康増進を図ると共に、環境への配慮をし、サイクリングやライドツアーによる交流人口の拡大を図る事を狙いとして、「暮らし」と「観光」の2本柱を立て目標を明確にして自転車利用促進事業を進めている(主任講師大杉覚氏提供資料より)。千曲市のサイクリング事業で進めようとしている内容と類似している箇所が多く、石岡市の事業は参考となり得る。

自転車観光先進都市の金沢市で見たe-バイク(電動自転車)の活用事業では、NTTのネットワークを使いバッテリーや利用状況を管理している。市をあげての取り組みで、収益と雇用も生まれ、地域の自然環境にも配慮し、観光の力を借りて人と人・在るものを繋いでいる。

金沢市の観光資源は駅から5キロ圏内に集中しているが、千曲市の場合、10キロ以上と観光資源が点在しているため誰もが気軽に利用することが困難であるため、観光としてサイクリングを利用するとなると対象者が狭まる。

千曲市でもe-バイクを導入できないかと検討を重ねているが、予算が無い中1台20万円前後と高額である事、維持・管理が大変な事がネックとなっているが、来年度からスタートするサイクリング事業で成果を上げることで導入も可能になる。

千曲市でのサイクリング事業では、スタンプラリーを開催し千曲市の賑わいと観光客の増加を期待している。スタンプラリーを開催するにあたり、協賛店や後援、参加者のトイレ・休憩所・メンテナンス場所を確保するため、サイクリングコース沿線の企業・店舗・個人に協力依頼に回ることで、活動を広めるきっかけ作りが出来る。自転車は、環境にやさしく、高齢者から子供まで気軽に利用できる交通手段で、狭い田舎道では小回りがきき、すれ違う人同士も顔が見え交流にも最適であり、観光で訪れた人の滞在時間も長くなることで、増収に期待が出来る。環境に配慮しつつ人を繋いで行く地域づくりは、国連が掲げるSDGsの目標達成に寄与する活動でもある。

サイクリング事業を進めるうえで、地域住民の理解と協力が必要不可欠であるため、多くの市民にサイクリングのモニター体験をしてもらい理解を深めて行き、上山田温泉地域で留まっていた活動を、当団体NPO法人元気お届け隊の豊富な経験を活かし、継続的に開催している交流イベント「ひだまり」カフェにてチラシ・パンフレット等の配布、ソーシャルネットワークや口コミで広めていき、温泉・景観・農業・人と人を繋ぐ役割を担っていく。

千曲交通安全協会に協力を依頼し、市内の子供たち向けの乗り方教室も開催し、地域めぐりをすることで、危険の確認と地域の在るものを知る機会も作り、地元への愛着を持つためのきっかけ作りをする。自転車の活用が進むことで、高齢者の自動車事故の削減や健康促進にもなり、災害時の足としても期待が出来る。普段、車で通り過ぎるだけの景色が、自転車だとゆっくりと見ることができ、地域に在るものの発見や良さを再確認でき、風を

肌で感じることで、心豊かで情緒も安定し、良い人間関係が生まれ易くなる。

⑵サイクリングを利用してつなぐ地域づくり案

①　親子自転車乗り方教室

親子自転車教室を開催し､親子のきずな作りと同世代間の交流を図り､繋がりを広げる。段階的に、サイクリングルートでのサイクリングを楽しむためのロードマップを作成し、スマートホンで距離が簡単に把握でき、例えば、ポケモンゴー同様にアイテムが取得出来るシステムを作り、安全で楽しいサイクリングを目指し、興味を抱いた人たちから繋いで行く。

効果として、親子で自転車の乗り方を学ぶことで、危険な乗り方が分かり事故の削減に繋がる。楽しみながら、地域を巡ることでサイクリングが苦でなくなる。子供のころから地域を自転車で巡ることで、地域を知ることが出来、地域の愛着へと繋がる。親が、子供にとっての地域の危険個所を把握できる。

問題点として、システム作りと導入に費用が掛かることや、自転車を持たない人は気軽に参加が出来ないことがあげられる。また、飽きない様にマップアイテムを仕掛け続けないとならない点が課題である。

解決策として、より多くの人に関わりを持ってもらいアイディアを出してもらう。アイディアを、提供して採用された人にもポイントが付くシステムも作れば参加者が増える。参加者や興味を抱く人が増えれば、システムに広告スポンサーが付き易くなり導入費用の捻出が出来る。広告収入が増えれば、レンタル自転車の購入費用が増え、自転車を持たない人でもお試しが出来る環境が整う。

②　配達式のサイクリング

サイクリングを単純に楽しむだけでなく、Uber Eats 型の配達方式のサイクリングの楽しみ方をする。一人暮らしの高齢者宅へ御用聞きして必要な食糧や生活用品を配達しながらサイクリングをする。

効果として、学生がサイクリングをしながら御用聞きをしてお届けすることで年代を越えてのつながりができ、収入へと繋がる。若者とのつながりが持てることで、情報共有や避難時に迅速な行動が取れやすくなる。高齢者や、障害を持つ方への優しさが生まれる。学生が地域の高齢者と繋がることで、地域に住み続けたい気持ちが生まれ、他県への流出を抑えられる。

問題点として、高齢者が若者と意思疎通が出来るか、少子化で対象の若者が少ないことに反比例し、高齢者が多いことで持続性に欠ける。

解決策として、登録者双方の顔写真入りの証明書を市から交付し不安を軽減する。サイクリングで訪れた人に移住を促し住んでもらう。

③　畑巡りサイクリング

畑巡りツアーをし、食材を調達して伝統料理作り大会を開催する。地元住民から作る料理メニューの課題を渡され、与えられた期日内に完成させる。期間を設けることで、観光客に長期滞在してもらえる。

効果として、利用者の長期関係を築けることでの増収及び地域住民や観光客は、伝統料

理を地域の高齢者から聞くことをきっかけに、地域の食文化や歴史が学べ、地域への関心が芽生え愛着へと繋がる。地域愛が芽生えることで、U ターンやＩターンに繋がる。

問題点として、通年での伝統料理に必要な食材の確保が難しいこと。料理が苦手な人の参加が望めないことがあげられる。

解決策として、季節限定にして付加価値を上げお得感を強調する。調理には、地元の料理好きの人のサポートを受けられるシステムにする。

⑶サイクリング弱者への配慮

自転車は体力のない人は、長距離を乗ることが出来ないので、休憩所・乗り継ぎ場所を設け、気軽に乗り継げると利用しやすいので協力店を募る。そして、しなの鉄道㈱と連携をし、サイクリング列車を設置してもらい、長距離にも対応できる様にする。以前提案して断られた経緯があるが、収益に繋がる企画を立て再度提案する。

自転車は、小さな子供や高齢者や身体の不自由な人には利用し難い点があるが、自転車を多くの人が利用することで、車の交通量が減り結果的に小さな子供や高齢者や身体の不自由な人の交通事故が減る。

しかし、自転車利用中の事故の不安があり、私は、2 回ほどよそ見運転の車にはねられそうになった経験から、自転車の乗り方のマナー教室やドライバーへの交通事故防止の啓発活動も同時に進める必要がある。

サイクリングツアーでは、観光地巡りだけでなく、山での山菜取り、田畑の農業体験、田舎料理体験など田舎の暮らし巡りをする。

観光地巡りには、ガイドを付け地域の人ならではの場所を案内し独自性を出す。ガイドを育成するために、学校の授業に地域の良いところ探しを取り入れる。講師は、地域の物知りの人にお願いすることで、子供と地域の大人とのつながりが出来る。山菜取り、農業体験、田舎料理体験も講師は、地元の山菜取り名人や農家、料理の得意な人に頼み、繋がりをつくる。

効果として、サイクリング弱者でもサイクリングと観光を利用して、講師やガイド、乗り継ぎ場所の管理者としても関わることが出来る。

⑷サイクリングが繋ぐ未来

サイクリングで必要な自転車は、環境に配慮しつつ誰もが安価で気軽に楽しめ、人や物を繋いで行けるツールである。車を所有していない人の大切な足でもあり、コミュニケーションとしての役割も果たすきっかけの一つでもある。

環境に配慮することで、温暖化の加速を抑えることが出来、気候変動で起こる水災害を減らすことが出来る。災害を減らすことが出来れば、気候や地形が維持でき、地域も存続しやすくなる。地域が維持できればこそ人が住み続けることが出来る。

現在、上山田温泉で留まっているサイクリング事業を、千曲市内に広めることで住民の意識改革にもなり、人と人をつなぎ未来へと繋いで行ける。

6、おわりに

コミュニティの参考として聞き取り調査に訪れた野沢温泉村では、役場の機能の他に『惣』という村民組織があり、惣の代表の惣代が地域での権限を持ち、地域の運営の一端を担っていた。現代になってもスキー組合という形で受け継がれてきていて、早くから地域リーダーの育成に力を注ぎ、海外留学を後押ししている。子供時代から異国の文化に触れることで柔軟な発想力と語学力や高いコミュニケーション能力を身につけている。村内を歩いて見えたことは、訪れた人への接し方が親切だということで、外湯巡りをしていた時に、先に入浴していた村民が、観光客へ入浴のしかたを丁寧に教えていた。

長野県では、時折住民以外の人には冷たい視線とキツイ態度をとることがあるが、野沢温泉村では、他者への接し方が不快を感じさせず、うちとけ易かった。

村内を歩いてみて感じたことは、村内でのコミュニティが確立できて、支え合い、地域を繋いでいることが分かった。スキーというきっかけがあり、高齢者の苦手を若者が補い、若者の夢を大人たちがサポートし、すべての村民が互いを尊重しつつ成長し続け進化している地域である。温泉とスキーが地域のコミュニティの要となり脈々と受け継がれ、子供たちが、留学や就学で一度地域を離れるが、地域への愛着が強く U ターンしている。(現地での聞き込み、街歩きから)

自転車は、屋外で一人でも楽しめ、コロナ禍においても安心して利用でき、今後ますます利用者の増加に期待が寄せられる。

千曲市でも、上山田温泉とサイクリングを使い、人と人を繋ぎ、環境に配慮しながら安心安全で住み続け易い地域に出来たらと思う。

長年、千曲市のコミュニティについて模索してきたが、レポートを書くに当たり市内外の多くの人と関わり、地域を見つめ直すことが出来たことが大きな収穫だった。

千曲市のコミュニティを考える中で、自転車を使い周遊するサイクリング事業と出会い、自転車が人と人を繋いで、そして未来へと繋いで行くことが出来ると確信した。

参考文献

・観光立国の正体　藻谷浩介／山田桂一郎　2016 年 11 月 20 日　新潮新書
・まちづくりの発想　田村明　1987 年初刊 1997 年 19 刷り　岩波新書
・信州ちくま食の風土記　千曲市食の風土記編纂委員会　平成 29 年 3 月 24 日
・写真集上山田の百年　上山田町　昭和 61 年 12 月 20 日　上山田町役場

比較参考資料

・野沢温泉村の概要　平成 30 年 10 月 1 日
・野沢温泉村の観光振興仰指針(案)　平成 25 年 3 月
・(社)国際観光施設協会　2013 年「観光施設」№303 地域から、地域の人々からまなぶ 第七回野沢温泉 白坂 蕃

第 32 期大杉ゼミ⑦　NPO 法人元気お届け隊　長浦　とし子

協力
・(一社)信州千曲観光局
・科野さらしなの里サイクリング推進委員会
・野沢温泉村観光協会
・(株)野沢温泉
・旅館さかや
・ホテルサンアントン